

日系企業の人材育成に成果

八角形住宅で知られる南富士産業(三島市)が昨年七月に開設したグローバル・マネジメン ト・カレッジ(GMC)が成果を挙げている。中国に進出した日系企業の幹部候補生となる中国人を育成する人材ビジネス。二年目を迎え、中国の大学生は もちろん、日系企業が熱いまなざしを注ぐ。今後の展開などを聞いた。

―GMC開設背景は。

「日系企業は現場管理の問題や中国人社員とのコミュニケーションの問題などから現地の事情に通じた経営幹部を育成する必要を感じ、金融機関もそう指導する。でも企業も金融機関も『現地化経営』という総論は賛成でも各論では、優秀な人材確保がなかなかできないでいる」

―GMCの人材育成法は。

「日本語と英語ができることが前提。超エリート大学の清華、北京、武漢などから四万五千人



キーパーソン

南富士産業 杉山 定久社長

の応募があり、百五十人を選んだ。養成期間は半年間。私や南富士産業の社員たちが集中的に研修に取り組んだ。経営概念をイラスト化するなど独自の手法も取り入れて人間力、管理能力、創造力を養った。基本三割、実践七割という割合。実践では企業再建、新技術開発や資金回収まで体験させた」

―修了生は何人。

「約三分の二を振り落としたが、四十五人が修了。全員が日系企業に就職した。十五人は日本で活躍している。GMCは二

年目が正念場、百人の修了生は出したい。学生からは費用は徴収しないが、人材を送り込んだ日系企業から五百万円程度の紹介料を受け取る」

―活躍例は。

「杭州にある企業の再建に副社長として送り、上海にある企業では新規プロジェクトを担当している。二十二歳の若者が幹部候補生として認められるのは訳がある。まず企業の問題点を見つけ出し、それを改善、解決できるからだ」

―他国でのGMCの開設予定は。

「私は三十年來、アジア各国に奨学金を出し続けている。それで中国の大学や各国の学生とパイプがある。その一人、ベトナムの奨学生から要望があった。元々アジアを視野に入れていたので年明けを目標に、十五人程度を三カ月で育成するGMC開設を計画している」

◆すぎやま・さだひさ氏 女性活用で木造住宅の常識を覆す

八角形住宅を開発。中国武漢大 客員教授。裾野市出身。63歳。

政治経済

しげおか